

Sugiura Hisui:
Epoch-making
Modern Design

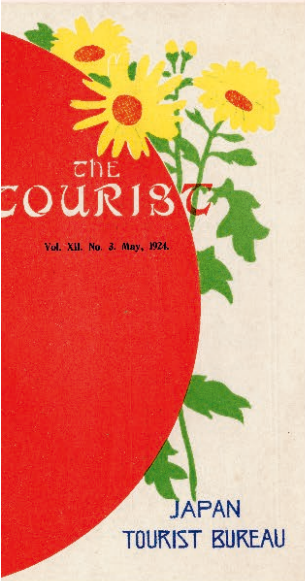
杉浦非水

Sugiura Hisui is a pioneer of modern design in Japan.



Gorgeous and beautiful things Creative, vibrant designs





華やかな美しいもの
新しい、生命のある図案



時代をひらくデザイン





2022.11.19 sat → 23.1.29 sun

前期 11.19sat → 12.18sun 後期 12.20tue → 1.29sun
※ 会期中、一部作品の展示替えがあります

- ◆ 休館日：毎週月曜日、年末年始 [12/28 - 1/4] ただし1/9[月・祝]は開館、1/10[火]休館
- ◆ 開館時間：10:00 - 19:00 [展示室入場は開館30分前まで]
- ◆ 観覧料：一般1,300(1,100)円、大高生・70歳以上900(700)円、中学生以下無料
*()は前売りおよび20歳以上の団体料金(団体券は来館当日に限り購入可能)
- ◆ 前売券：2022/10/1[土]から11/18[金]まで以下にて販売
静岡市美術館、ローソンチケット[Lコード42822]、セブンチケット[セブンコード097-050]、チケットぴあ(Pコード686-202)、谷島屋(パルシェ店、マークイズ静岡店、流通通り店)、MARUZEN&ジャンク堂書店静岡店、大丸松坂屋静岡店友の会、戸田書店江尻台店

[主催] 静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、Daichi-TV [共催] 毎日新聞社
[後援] 静岡市教育委員会、静岡県教育委員会 [協賛] ニューカラー写真印刷株式会社
[特別協力] 株式会社三越伊勢丹ホールディングス、東京国立近代美術館 [企画協力] 愛媛県美術館

上段(2点とも)：「津水一般図案集」より、1921年/中段[左]：「THE TOURIST」Vol.XII No.3(部分)、1924年/中段[右]：「三越呉服店 春の新刊陳列会」(部分)、1914年/中段[中]および下段(2点とも)：「津水創作図案集」より、1926年 ※すべて愛媛県美術館蔵



Today, Hisui's clear and sophisticated design remains as fascinating as ever.



静岡市美術館
SHIZUOKA CITY MUSEUM of ART

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F
tel. 054-273-1515 (代表) www.shizubij.jp

◆ JR 静岡駅北口より徒歩3分 ◆ しずびは夜7時まで開館
当館ホームページ(www.shizubij.jp)より日時指定予約ができます。詳細はHPをご覧ください。





静岡市美術館
SHIZUOKA CITY MUSEUM of ART

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F
tel. 054-273-1515 (代表) fax. 054-273-1518

【プレスリリースのお問合せ】 展覧会担当：山本・安岡 広報担当：岡田

愛媛県出身の杉浦非水(1876-1965)は日本におけるモダンデザインの先駆者です。東京美術学校で日本画を学びましたが、洋画家・黒田清輝がフランスから持ち帰ったアール・ヌーヴォーの図案に魅せられてその道を志しました。

明治 41 年(1908)に三越呉服店に職を得ると、27 年間にわたり同店のポスターやPR誌表紙などのデザインを一手に担いました。その間、三越のみならず、広告やパッケージのデザイン、多くの本の装丁等を手がけ活躍しました。

明快で洗練された非水のデザインは今日もなお、私たちを引き付けてやみません。



杉浦非水 大正 3 年(1914) 三越呉服店図案部にて

本展では、非水の故郷・松山にある愛媛県美術館の全面的な協力を得て、ポスター、図案集、装丁といった代表的仕事に加え、彼の創作の原点となるスケッチや、写真、遺愛の品々など 300 点余りを紹介し、その全貌に迫ります。

展覧会のみどころ

(1)日本のデザイン黎明期を代表する画家・杉浦非水、静岡県内初の回顧展

明治 30 年代、日本に洋風図案を手がける人がほとんどいなかった時代に杉浦非水は図案家を志しました。装丁や三越の仕事で活躍する一方、図案の研究団体を結成したり、昭和 4 年創立の帝国美術学校の工芸科図案科長に就任し後進を育成したりと、図案界の発展に尽力しました。日本のデザインの黎明期の歴史そのものともいえる非水の作品がまとまって紹介される県内初の機会です。

(2)代表作からスケッチまで、非水の全てを網羅

ポスターや図案集、書籍や雑誌の装丁といった代表作から、創作の原点となるスケッチや収集品や写真といった非水の美意識をうかがい知ることのできる資料まで、300 点以上のボリュームで全貌を紹介します。

(3)レトロでモダンな非水デザインの魅力

「一般の人々が望んでいる所の華やかな美しいもので新しい、生命のある図案の作られる必要がある*」と考えていた杉浦非水の図案は、洗練された明快さで今日もなお私たちを魅了します。モダンでありながらどこか懐かしさを感じさせる非水の図案をお楽しみ下さい。

*杉浦非水「図案に就ての雑感」『美術旬報』第 151 号、大正 7 年 2 月(旧字、旧仮名遣いは新字、新仮名遣いに改めました)

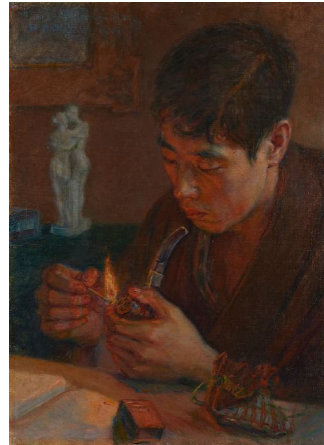
展覧会構成

■第1章 図案との出会い

東京美術学校日本画科在学中の写生や、師の黒田清輝や盟友中澤弘光との交流をうかがわせる作品、美術学校卒業後の仕事など非水の若き日の足跡をたどります。



《日本画科写生教室 五月三日》明治 30-34 年
(1897-1901) 愛媛県美術館



中澤弘光《非水像》明治 34 年(1901)
東京国立近代美術館

非水が中澤弘光とともに黒田清輝邸に寄寓していた頃に描かれた肖像。マッチの火はすぐに消えてしまうため、非水はろうそくを持って一週間ほどモデルを務めたといいます。



美術学校卒業後、非水は大阪の三和印刷店勤務、島根での中学校教師生活を経て、明治 38 年に東京中央新聞社に入社します。富士山八合目に電話が開通した際には記者とともに登山し、山麓の名所や頂上の様子などを描いた『富士山スケッチ』を出版しました。

『富士山スケッチ』より 明治 40 年(1907)
金尾文淵堂発行 愛媛県美術館

■第2章 図案の開拓者

非水は明治 41 年(1908)、中央新聞社に在籍しながら三越呉服店に夜間勤務嘱託として入店。明治 43 年(1910)意匠部から図案部が独立すると非水は初代主任となり、以後 27 年にわたってポスター、PR 誌、パッケージなどを一手に担いました。多忙になり中央新聞社を退職した後も三越では嘱託の身分を貫き、並行してほかの企業のデザインや、装丁、雑誌の表紙などを手がけました。また、「書籍装幀雑誌表紙図案展覧会」を開催したり、中澤弘光らと美術団体「光風会」を創立し図案を出品したりと精力的に制作と発表に打ち込みました。



《三越呉服店 春の新柄陳列会》
大正 3 年(1914) 愛媛県美術館

「書籍装幀雑誌表紙図案展覧会」
会場写真(『非水アルバム帖』より)
明治 45 年(1912)撮影
愛媛県美術館



■第3章 自然に学ぶ——写生と図案

「自然には新しい図案が無数にある。新しい材料が無数に供給されてゐる。此自然の材料を独自の技巧に依つて生かして行くのが、図案家の真の仕事ではないか。*」と語る非水は、自然と対峙しその神髄を捉えることを自らの創作の根幹に据えていました。この章では、創作の原点となるスケッチや、写生から生まれた図案のほか、非水が撮影した写真や映像を紹介し、非水の自然へのまなざしを探ります。

*「図案に就ての雑感」『美術旬報』第 151 号、大正 7 年 2 月

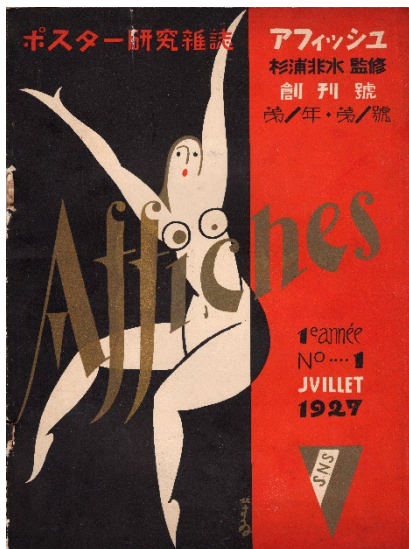
『非水百花譜』(昭和版)より
昭和 4-9 年(1929-34)
愛媛県美術館

『非水百花譜』は大正 9 年から 2 年半をかけて春陽堂から限定 600 部が頒布されました。非水が原画を描き、当代の名人が彫りと摺りを手がけた多色摺木版は、細部まで繊細に表現されており、自然の造形に対する非水の関心を物語ります。関東大震災で版木が焼失しましたが、非水の手元に残されていた原画から昭和 4 年に再び発行されました。



■第4章 非水が目指したもの、のこしたもの

大正 11 年(1922)、非水は念願の洋行を果たします。1 年足らずの滞在でしたが、フランスを中心にドイツ、イタリアなどを訪問し、ポスターなど参考資料の収集に努めました。「アール・デコ」と呼ばれる、明快で幾何学的な装飾芸術のスタイルが流行し始めていたヨーロッパの実情に触れて帰国した非水の作風は、よりモダンでシャープなものへと展開します。また、大正 14 年(1925)に国内初の図案研究団体「七人社」を結成し、デザインの重要性を世にアピールしたり、昭和 10 年(1935)の多摩帝国美術学校(現・多摩美術大学)創立に加わり、校長兼図案科主任教授となって後進の育成に携わるなど、日本の図案界の発展にも尽くしました。



アジア初の地下鉄開通を告げる本ポスターは非水の代表作であり、近代日本のポスターの名作の一つでもあります。電灯がともされた明るい地下ホームに大勢の人々が集い、とりわけ目立つ前景にはモダンな洋装の家族連れが描かれています。大胆な構図や単純で力強い色と形には、非水が洋行で学んだアール・デコの影響がうかがわれます。



上右:『大阪の三越』第6年第11号

昭和5年(1930)

上左:『アフィッシュ』第1年第1号

昭和2年(1927)

右:『東洋唯一の地下鉄 上野浅草間開通』

昭和2年(1927)

すべて愛媛県美術館

関連イベント&おたのしみ

■関連イベント■

1. 講演会① 11月26日(土)

講師:竹内 幸絵氏(同志社大学社会学部教授)

申込締切:11月10日(木)必着

2. 講演会② 12月18日(日)

講師:長井 健氏(愛媛県美術館 専門学芸員)

申込締切:12月1日(木)必着

1、2とも

時間:14:00~15:30(会場 13:30)

会場:当館多目的室 参加料:無料

定員:60名(予定、応募多数の場合は抽選)

※申込方法の詳細は当館ホームページをご覧ください

3. 学芸員によるスライドトーク

日時:12月17日(土)、1月14日(土)

いずれも 14:00~(30分程度)

会場:当館多目的室 / 参加料:無料

定員:60名(予定)

申込不要、先着順(当日 10:00 より整理券配布)

■お楽しみ■

1. 喫茶しずび 期間限定オープン

期間:杉浦非水展会期中

会場:ミュージアムショップ&カフェ

*期間限定メニューを提供いたします

2. 特集展示 竹久夢二展

期間:11月29日(火)~12月4日(日)

会場:当館多目的室 / 観覧料:無料

*竹久夢二展会期中に杉浦非水展をご観覧の方、各日先着 100 名様にオリジナルグッズをプレゼント

3. しずびの年末プレゼントウィーク

12月20日(火)~27日(火) ※月曜休館

*期間中、杉浦非水展ご観覧の方にもれなくオリジナルグッズをプレゼント

開催概要

■会場 :静岡市美術館

■開催期間 :2022年11月19日(土)~2023年1月29日(日)

*会期中に一部作品の展示替えがあります[前期:11/19~12/18 後期:12/20~1/29]

■休館日 :毎週月曜日、年末年始(12月28日~1月4日)

*ただし1月9日(月・祝)は開館、10日(火)休館

■開館時間 :10:00~19:00(展示室入場は閉館 30分前まで)

■観覧料 :一般 1,300(1,100)円、大高生・70歳以上 900(700)円、中学生以下無料

*リピーター割引:2回目以降、本展の有料観覧券半券提示で当日券 200円引き

* ()内は前売および 20名以上の団体料金(団体券は来館当日に限り購入可能)

*障がい者手帳等をご持参の方および介助原則 1名は無料

■前売券 :2022年10月1日(土)から11月18日(金)まで販売

■主催等 主催:静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、静岡第一テレビ

共催:毎日新聞社 後援:静岡市教育委員会、静岡県教育委員会 協賛:ニューカラー写真印刷株式会社

特別協力:株式会社三越伊勢丹ホールディングス、東京国立近代美術館 企画協力:愛媛県美術館